

環状鉄芽球を伴う骨髄異形成症候群に関する調査のお知らせ

帝京大学医学部附属溝口病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2026年2月24日～2028年3月31日

〔研究課題〕 環状鉄芽球を伴う骨髄異形成症候群の臨床的特徴とLuspaterceptの治療成績：後方視検討

〔研究目的〕

骨髄異形成症候群のうち、環状鉄芽球を伴う亜型では、ルスパタルセプトという新しい薬が貧血の改善に効果を示す可能性が報告されており、新たな治療選択肢として期待されています。一方、この薬の効果が期待される亜型がどのくらい存在するのか、また実際の治療効果や安全性については、まだ十分に明らかになっていません。本研究では、当院で診断、治療を受けられた患者さんの診療記録をもとに、環状鉄芽球を伴う骨髄異形成症候群の実態や、ルスパタルセプトの有効性、安全性について明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕

環状鉄芽球を伴う骨髄異形成症候群では、貧血が進行し輸血を必要とすることが多く、生活の質にも影響します。ルスパタルセプトの有効性が期待される一方、日常診療における使用経験は限られています。本研究を通じて、治療が有効と考えられる症例の特徴や、実際の治療成績、安全性を明らかにすることで、今後の適切な治療選択に役立つことが期待されます。

〔対象・研究方法〕

2015年4月から2025年3月までの間に、当院で骨髄異形成症候群と診断された方を対象に、診療記録をさかのぼって診断時の情報やその後の経過を調査します。環状鉄芽球を伴う症例については、ルスパタルセプトの使用の有無による経過の違いを検討し、使用された症例では貧血の改善状況や、有害事象についても調査します。

〔研究機関名〕

帝京大学医学部附属溝口病院 第4内科

〔個人情報の取り扱い〕

この研究では、診療記録などの情報を使用しますが、お名前や住所など、個人が特定される情報は除外したうえで、特定の個人が分からないように加工、管理された形で分析します。また、この研究の結果が学会や論文で発表される場合も、個人が特定されることは一切ありません。研究に使用する情報は、当院が責任を持って適切に取り扱い、外部に漏れることがないように十分に配慮いたします。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：氏名 小林彩香
所属：帝京大学医学部附属溝口病院 第4内科 職名 准教授
住所：川崎市高津区二子5-1-1 TEL:044-844-3333（代表）